キャラクター名
御景アキラ

プレイヤー名

シンドローム	エンジェルハィロゥ エンジェルハィロゥ	ワークス	UGNエージェントB	カヴァー	会社員
オプショナル		年齢	24	性別	男
覚醒	無知	衝動	嫌悪	初期侵食率	30 %
出自	双子	経験	裏切った	邂逅	恩人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	0	0	1			1
感覚	6	1	0			7
精神	2	0	0			2
社会	0	0	1			1

HP	24
行動値	16
(非装備時)	16
戦闘移動	21
全力移動	42

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	9		ＲＣ	1		交渉		
回避			知覚	1		意志			調達	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				
(~59) 12345【闇夜の一矢】	射撃	12r+9				12dx+9@8　攻撃d10+9
(~79) 12345【闇夜の一矢】	射撃	13r+9				
(~99) 12345【闇夜の一矢】	射撃	14r+9				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
コネ：UGN幹部	
コネ：情報屋	
思い出の一品	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
D:闇使い《ダークロード》	P	N		
御景アカリ	P　純愛	N　悔悟		
アンサー	P　信頼	N　隔意		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:　4	残り財産P：　0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
光の銃	1	2	ｾｯﾄｱｯﾌﾟ	至近	自身	自動	-	
効果：攻撃力＋[LV+２]								
闇の指先	1	7	ｵｰﾄ	視界	単体	自動	D	
効果：敵のC値を＋１　1シナリオにLV回								
ｺﾝｾﾝﾄﾚｲﾄ：ｴﾝｼﾞｪﾙﾊｲﾛｳ	2	2	ﾒｼﾞｬｰ	-	-	-	-	
効果：C値-LV								
主の右腕	3	2	ﾒｼﾞｬｰ	-	-	ｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ	-	
効果：攻撃力＋LV*2								
天からの眼	5	2	ﾒｼﾞｬｰ/ﾘｱｸｼｮﾝ	-	-	射撃	-	
効果：ダイス＋LV								
マスヴィジョン	3	4	ﾒｼﾞｬｰ	-	-	ｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ	100%	
効果：攻撃力+[LV*5] 1シナリオ3回								
見放されし地	1		ﾒｼﾞｬｰ					
効果：光が遮断された空間をつくる								
天使の外套	1		ﾒｼﾞｬｰ					
効果：外見を上書きする								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

メモ　11/20 エフェクトリビルド
2018/4/30 リリビルド
7/21 リリリビルド

男は夜を歩いていた。月の光の届かない夜。街はとうに眠りにつき、響くのは男の足音だけ。
肩を切る風にゆらめく外套は、仄かに黒い光を纏っている。
漆黒の光――それは果たして“光”であると言えるのか？
それは陽の光のように暖かさをもたらすこともなければ、月光のように神秘的な輝きをみせることもない。
エンジェルハイロゥ――“天使の輪”を意味する能力名は、彼にとっては皮肉と侮蔑だった。
手のひらの上でその闇色を遊ばせながら、男は一人自嘲する。
自分には、こんな新月の夜が合っている。光がもともと見えなければ、自分のそれを意識することもないのだから。

*****

UGN武上支部のエージェント。
優秀で冷静沈着な男だが、人付き合いが悪く決して他人に笑顔を見せることはない。任務以外で他人と関わることを極端に避けるため、職員からは敬遠されている。それゆえ普段の任務は一人でこなすことが多い。
新月の夜、闇に紛れて淡々と任務を遂行する様子から、新月の死神《ノイモント》と呼ばれるようになった。

双子の妹、アカリとともに児童養護施設で育った。
幼少期に覚醒していたが、同時期に同じくエンジェルハイロゥの力に覚醒したアカリと能力については隠していた。12歳の時にひょんなことから周りに知られ、UGN武上支部に引き取られることになった。